子どもを育て 未来をつくり

神戸市と東京都世田谷区で認定こども園、保育園、児童館の運営に当たる社会福祉法人神戸保育会（土井正孝理事長）が、11月1日で創立120周年を迎えた。明治期に開設された保育所をルーツとし、戦争や資金難、震災など幾多の困難を乗り越えながら、保育事業を継続してきた。常務理事の岡崎真子（なおこ）さんに、同会のこれまでとこれからについて聞いた。

神戸保育会 創立120周年



お散歩の時間（2025年、神楽こども園）


第9代理事長 岡崎藤雄氏


第7代理事長 岡崎忠雄氏


初代理事長 坪野平太郎氏

戦争、震災…苦難乗り越え

1906（明治39）年11月1日、日露戦争の記念事業として出征軍人家庭の子どもや労働者家庭の子どもを保育する保育施設4カ所をもって発足した。当初は「戦役紀念保育会」と称し、代表者には歴代神戸市長が就いた。

42（昭和17）年、第二次世界大戦の戦況が厳しくなると、神戸市の財政は危機にひんし、事業存続が危ぶまれる事態となった。このとき、法人役員の立場にあった実業家の岡崎忠雄氏（1884～1963）が「この戦況下、今保育所が必要とされているときに閉鎖することは避けなければならない」と、自ら事業の後継を決断。以後、民営の園として歩むことになった。


薬仙寺保育所（1912年）


楠保育所（大正時代）


八幡保育所（1926年）

立されたが、戦後まで存続したのは、同会の前身である神戸の戦役紀念保育会など数園のみという。

明治、大正、昭和という激動の時代を乗り越えてきた神戸保育会は、平成に入り、またしても大きな困難に見舞われた。95年1月17日に起きた阪神・淡路大震災だ。拠点を置く長田区は、被災地の中でも特に被害が甚大であったエリア。園舎は壊れ、電気、水道、ガスなどの生活インフラが寸断されて通常の保育が難しい中、被災3日後から園の門を開けた。

令和に入り、保育ニーズの高い東京都への進出を検討。2018年、世田谷区に「尾山台みどり保育園」を新設し、神戸で培った家庭的で質の高い保育を東京でも実践している。

園の灯守った1人の実業家


震災の話にじっと耳をすます（2026年、神戸保育園）

その後、45年の第二次世界大戦の神戸大空襲などで施設3カ所が焼失し、長田区水笠通の1園体制に。日露戦争当時、全国200カ所に保育園が設


常務理事 岡崎 真子さん

「集団保育の場は大きな学び」

創始者の1人、生江孝之（1867～1957）は子どもたちの教育の大切さを留学先の欧米で学び、神戸の戦役紀念保育会で実践した。法人の理念である「家庭を忘れ、親を除外して児童の問題は解決できない。子を親とともに受容し、家庭におよぼすことこそ児童愛護である」というのは、120年前の救貧・防貧といった福祉的な面が大きかった時代に掲げられたものだ。現在、保育園やこども園、児童館で関わる子どもたちも、家庭の状況が大きく影響するので、子どもだけを見るのではなく親も受け入れ、共に子育てすることが大切だ。未来を担う子どもたちの健全な育ちを支え、育てる保育園、こども園の役割は大きい。

保育の特長として「担当制保育」がある。子ども一人一人を丁寧に見ることが狙いで、0～2歳児の食事、着替え、排せつの場面で、いつも同じ保育者が同じ子どもの世話をする。発達段階がよく分かり、健康状態も細やかに把握できる。それぞれに合った介助をすることで、子どもは「できた」が増え、保育者とともに喜び、認められた経験をする。保育者がいつも自分を見ていてくれるという安心感が信頼感へとつながり、保

「担当制保育」で丁寧に


「芽が出ますように」と、種団子作り（2025年、神戸保育園）

親も受け入れ 共に子育て

新しいものでにる大崎本た

時代、地域に寄り添い

神戸市長田区は市内でも急ピッチで少子高齢化が進んでいる。そんな状況の中、同会は地域の団体・人々と協力し、地域になくてはならないこども園として活動している。毎年地元の祭りで年長児が和太鼓演奏を披露する姿を楽しみにする住民も多い。

また、近隣の区立・私立こども園、市立小学校との交流も。神戸保育園は、水笠保育所が開設された1924（大正13）年から長田にある。このつながりの中で、市から神楽こども園を移管、細田児童館の運営を受託することで、0歳児から小学校までの子どもたちの成長を切れ目なく支えている。

核家族化が進行し、子育ての経験がなく、乳幼児に接したことのない人が親になることも珍しくない中、子育ての基本から話さなくてはならない場合もある。「子どもの発達を伝えて、子どもの気持ちを代弁していくことも私たちの役割だと思っています」と岡崎さんは話す。地域の子育て支援にも力を注いでいる。

また、配慮の必要な子どもが増えてきていることも保育現場のあり方を変えている。保育者は、障害児保育の知識・経験を持ち、障害を持つ子どもが自分らしく過ごし、園で社会性を学ぶことができるよう、関わり方を考えながら教育・保育を行っている。

「保育園の仕事は、子どもたちを育てる仕事であり、日本の未来をつくる仕事」と岡崎さん。卒園児たちはやがて大人になり、興味のある社会に役立つ仕事をすることになる。つまり、将来をつくる人になる。「園で過ごす6年間で、失敗しても困難に直面しても再び立ち上がれる力を養ってほしいと思います。子どもたちの未来が素晴らしいものになるよう、私たちは変わらずこの場所にいてお手伝いしていきたいと思っています」。大きな使命感を胸に、新たな歴史を紡いでいく。


自分を大切にするための「からだのおはなし」（2025年、神楽こども園）


楽しく健やかに。ボルダリングもできる（2026年、神戸保育園）

みんなが夢中になる室内お絵描き（2026年、尾山台みどり保育園）

神戸保育会 120年のあゆみ

1904年（明治37）　日露戦争勃発
06年　戦役紀念保育会保育事業開始。初代理事長に第2代神戸市長を務めた坪野平太郎氏が就任
42年　神戸市が保育所の閉鎖を決議。当時の理事岡崎忠雄が本会の継承を引き受け理事長に就任。事業運営を引き継ぐ
46年　戦役紀念保育会の名称を神戸保育会に改める


㊤お遊戯会（1950年）㊥みんなそろってお昼ご飯（57年）㊦63年に建て替えられるまでの神戸保育所の木造園舎（撮影年不詳）㊧園庭で遊ぶ子どもたち（57年）

95年（平成7）　阪神・淡路大震災の3日後より保育を再開
2000年　阪神・淡路大震災の区画整理により園舎を移設
07年　財団法人から社会福祉法人へ移行
08年　神戸市立神楽保育所を譲り受け神楽保育所（現神楽こども園）開設
16年　保育所から幼保連携型認定こども園へ移行
18年　東京都世田谷区に尾山台みどり保育園を開設
23年（令和5）　細田児童館、蓮池学童保育コーナーの運営受託

㊤1963年しゅん工の神戸保育園園舎
㊦現在の園舎



はじめて、手洗いできたよ。
はじめて、お友達にバイバイできたよ。

きのうまで
できなかったことが
できるよろこび。

小さないのちは、
いろんなことを
学んでいる。

安心すること。
頑張ること。
助け合うこと。
競争すること。

人の土台をつくる、
小さくて大きな一歩を
これからもしっかり
見守りたい。

神戸保育会は、神戸のまちとともに。
おかげさまで120周年をむかえました。


認定こども園〈神戸保育園〉


認定こども園〈神楽こども園〉


認可保育園〈尾山台みどり保育園〉


児童館・放課後学童保育〈細田児童館〉

社会福祉法人神戸保育会 https://kobe-hoikukai.com/